

# PMR 資格試験への挑戦

## ～プログラムマネジメント適用領域の再発見～

三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社  
 コンプライアンス推進室 担当部長  
 こんもとゆき  
 昆 資之



### 1. 受験の動機

私は、組織所属の ICT 技術者として様々な立場で色々な分野のお客様にシステムやサービスを提供して来ました。2018 年 3 月末に定年を迎えるにあたり、自分の技術や仕事を総括する一環として、PMAJ の PMR 資格試験に挑戦することにしました。

### 2. 受験までの経緯

2015 年度 1 次試験に合格の後、2 次試験受験希望者が少なく、2 次試験が実施されず、2016 年度は業務の都合で受験を見送りましたが、2017 年度は事務局の方々からの篤いご要請もいただき、2 次試験を受験しました。

### 3. 受験の感想

2 次試験は、1/20(土)・21(日)のモジュール試験審査、2/4(日)の面談審査の 2 つとも的確に対応しなければなりません。モジュール試験を受験する頃は、私は 2017 年 11 月末からの風邪を悪化させて激しい咳が続く状況が少し良くなり、医者の方で薬局に調剤していただいた薬により熱はある程度治まって来ましたが、一度咳が出るとしばらくの間抑えきれないことがまだ続いていて、一緒に受験している 3 名の方々や試験官の皆さんにご心配をお掛けしないようにマスクをしている時間帯が多かったです。初日のお昼は 3 名の受験者と近くのお店で食事をとり、チームビルディングが少しできました。モジュール試験はグループ討議・発表と連動しているので、午後からのグループ討議・発表は、午前のものに比べ、論点の深化、相互の認識の理解、自分自身の立ち位置等の確認が少しずつできるようになりました。試験官はこのグループ討議の進め方(相当限られた時間枠を守りながら、与えられたテーマをグループとして、また個人として処理して行く姿)を様々な角度から評価しています。受験者の様々な経歴・スキル・経験の違いを乗り越えて、タイムボクシング的に、要領よく論点を抽出し、妥当な方向性を定め、それに向かって論点の整理、課題の明確化、その対策の提示、及び全体のプレゼンテーションを最後に個人で実施します。方向性のズレ、論点の偏り、課題明確化の不足等について、試験官の誘導がありましたので、時間との勝負の中で大変助かりました。他の研修やセミナーでは、5 日間や 10 日間掛けて、基本的な解説から参加者のレベルを立ち上げながら、グループ討議を含む演習を展開するということがありますが、PMR のモジュール試験はこれを 2 日間で実施し、個々人の力量の評価まで行うという、相当にハードな試験でした。これは、受験者が P2M の基本を十分理解していることを前提にしているからできることだと考えています。面談審査では、上述の自分の認識と実際の言動をベースとして口頭で確認いただきました。今後の力量向上、活動活性化の可能性を見ていただいていたのだと考えています。

### 4. PMR としての展望

今、P2M 標準ガイドブックをジックリ読み直しています。今回の挑戦に伴う準備や振り返りを通して、PMR に求められる力量は、私の現業務にも十分に活用できるものであることを確信しました。最終的にビジネスとの整合性、ビジネス目的達成への貢献度の重要性を認識し、継続的改善を含む各種活動が組織に根づくように多くの部門に P2M の精神を広げたいと思います。さらに、必要があれば社外の方々も支援したいです。以上

#### 【プロフィール】

三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社 コンプライアンス推進室 担当部長  
 三菱電機の約 30 年間、様々な分野の ICT の SE、PM、BA 等の役回りでも活動した後、2011 年から現会社に出向、その後転籍。4 年間の PMO 活動とりまとめの後、直近 3 年間は ISMS、ISMS-CLS、PMS、ITSMS、BCMS 等を軸にリスクマネジメントベースのコンプライアンス活動を取りまとめています。